

南鳥島事件軍艦沈没遺骸  
穂波遺系墳火伴

電



電信譯文

華盛頓發 廿五年七月十三日 前二四〇  
東京着 在米 在七二〇

小村外務大臣

高平全權公使

第五十一號

新聞紙ノ報スル所ニ據ルキヤフテン、ロースヒル氏ハ近頃合衆國  
 政府ヨリ、カヌ島ニ對スル權利ヲ允サレタルヲ以テ該島占領  
 為メニ一隊ヲ率ヒテ七月十一日布哇ホノル港出發ノ筈ナリト  
 去テ又同キヤフテンニ機械整備ノタメ殆ト十八ヶ月以前該島ニ  
 立寄リシニ同地ニ日本政府ヨリ附與セラレタル公文證書ヲ所持  
 シ日本入二十名許在留セリト云フ  
 日本政府ニテ若シ該島ノ所有權ヲ主張セントモ本使ハ其

越々合衆國政府ニ通告セント欲ス然レトモ右場合ニ本使其理由ニ  
 付御通報ヲ煩ハシタシ而シテ同キヤプテンニ面會シ詳細ノ説明  
 ヲサスガ為メニ直チニ軍艦一隻ヲ該島ニ派遣セラレタシ  
 右至急御返電ヲ乞フ

備



在米

高平全權公使

小村外務大臣

電信譯文 廿五年六月十五日辰三〇發

第三十四號



貴電第五十一號、閱之

マールカス島(北緯二十四度十四分東經百五十四度、在リ)ハ

南鳥島ト名ケ之ヲ小笠原群島中へ編入シタル上去ル明

治三十一年東京府ノ管轄ニ屬セシメタル之ニ関スル告

示ハ今年七月廿四日發布セラレ談島ハ先是數年來全島

於テ魚鳥捕獲ニ從事シ居リタル本邦人水谷ナル者ニ

貸下ケタリ目下全島ハ本邦人四五十名婦人小兒共移

住し居し

事情右ノ如クナルヲ以テ閣下ハ右事實ニ就キ米國政府  
ノ注意ヲ喚起シ且又談島占領ノ允許既ニ與ヘラレタル  
モノトセハ兩國政府間ニ無用ノ紛擾ヲ避クル為メ速ニ  
談允許ヲ取消スヘキ措置ヲ採ラル、様深ク米國政府ニ  
勸告セラルヘシ

# 傳

## 第五十二號

本官電信第五十一號ニ関シ

其筋ヨリ内意ヲ受テタルモノト見ヘ當地諸新聞紙ハ報

道スラク公文記録中千八百九十九年「キヤプテン・ロリス

ヒル氏ガ談島發見ヲ届出テタルノ事實アリト雖モ米國

政府ハ談島ノ台有ヲ為スニ付正式ノ手段ヲ執ラザリシ

ノミナラス是迄談島ニハ米國人ニシテ一モ事業ヲ企圖

シタル者ナキノ事實ヨリ見ルモ今既報ノ如ク日本人カ



小村外務大臣

在米

高平金權公使

電信譯文

華國領事館  
東京着

共前二三。

全地、於ニ營業中ナラハ之ニ就キ米國政府カ干涉スル  
カ如キ事爲アラサルヘシ

和

午塔案

持啓  
 七月十三日在朱高平公使ヨリ貴大臣、素  
 電中「キヤアテンローズヒル」ト如何人ニ可  
 有之武庫船、船長ナルヤ高船、船長ナルヤ如何  
 船船ニテ「カス島」向ヒレモ「可」有之武庫船  
 相傳居其、脚回不初願度其路此依預申  
 上々願育

七月十八日

真田勘定奉行 菅野長政

山座外 菅野長政

和

菅野長政

海軍



1183

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

口  
 下  
 下  
 下  
 下  
 下

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

今  
 其  
 所  
 在  
 之  
 地  
 亦  
 有  
 其  
 名  
 曰  
 大  
 江  
 戶  
 也

1185

東  
山  
寺  
の  
御  
願  
文  
に  
由  
り  
て  
書  
す

記、船長  
 口、  
 者

あしむるあなま

あまのあま

あまのあま

あまのあま

あまのあま

あまのあま

あまのあま

あまのあま

1188

有田 先利  
有田 先利  
有田 先利

正徳元年

五月廿七日

丁酉

出公  
取  
不  
本  
別

本  
別

別

高

了

一

高

軍務局長

第... 大...

課長

...

先等奉件外務省ノ意見同合セテハ如何可有之哉

米國艦船長ロースヒル氏ハ本國政府

ヨリカス島ヲ占領スルコトノ先許

ヲ得テ七月十日布哇ヲ出帆シ同島

ニ向ヘリ云々ト而シテ右占領計畫

數年前一タビ同島ヲ探検シ同島

ニ日本人數十人在住スルコトヲ確

上ニテノ願出ナリト

同島ハ明治三十一年七月帝國東京

府ノ管轄ニ屬セシメラシムルモ純

然ルニ帝國ノ領土トナリタリ以テ其

當時公然同島ヲ日本領土ニ編



1190  
1190-2

高

支那の領土

先等本件外務省ノ意見同合セテハ如何可有之哉

ヨリカリス島ヲ占領スルコトノ先許  
ヲ得テ七月十日布哇ヲ出發シ同島  
ニ向ヘリ去々ト而シテ右占領計畫  
數年前一タビ同島ヲ探檢シ同島  
ニ日本人數十人在住スルコトヲ確  
カスルコトヲ願出ナリト

同島ハ明治三十一年七月帝國東京  
府ノ管轄ニ屬セシメラレタルモ純  
然タル帝國ノ領土トナリタリ以テ  
當時公然同島ヲ日本領土ニ編

入スル者ヲ世界ニ公布セラルコソ至  
 當ナリシナリ乎(小笠原島附属硫  
 黄島ノ例是ナリ)東京府ノ告衆ニ  
 三ノ世界ニ對シテ公告ト謂フヲ得ズ  
 然レトモ今日事實同島ニ日本人在  
 住スル以上、日本ノ領土タルコト、新言  
 ニ得ル所ニシテ世界何人カ之ヲ争  
 フコトヲ得サルモノト言ス  
 右七月十日以後在米高平公使ト  
 我外務省トノ間數回照復セシ  
 米國政府及同國ノ輿論ハ同島ヲ

日本ノ領土ト認めらる方ノ傾向アリ吾  
 確ト其ノ趣アルヤニ圖ケリ然レトモ  
 是レ銘子七月十日以後ノ事ニ廣ク又  
 七月十日布達ノ案レ先右米船長ハ  
 電信不通ノ海洋ニ在リ河ソ右等  
 ノ消息ヲ知ルヲ得ルヤ必ス一意專  
 心カシク島ニ米國々旗ヲ樹ツル  
 コトヲ期スルナリ其ノ機ニ至リ同島  
 ニ在ル日本人ヲ殺戮スル等ノコトハ  
 文明國人ノ性質ニ訴ヘ萬々之レ  
 無カレバキモ之ニ退去ヲ求ムル等事

毎  
 頁

一或之しア是然ルトキハ是し由也敷  
 國旗上ノ大國額ナリトス  
 此場合ニ於テコリ國旗保護ハ海  
 軍ノ本任務ナルヘシト恩考ス

假令米船カ本國政府ノ意思恩ノ  
 変更更知ラスレテ一時錯謬ト出  
 テ是處置ハ後日之ヲ矯正スル  
 ノ道アリトスルモ一たび汚サレタ  
 旗ノ汚點ハ除クヘキニアタ且ツ國  
 旗ノ汚サレアルヲ知リナカク等閑  
 視スルハ國家海軍ヲ置カレタ  
 幸者ニカラスル也

依<sub>テ</sub>此<sub>レ</sub>後<sub>ニ</sub>高<sub>平</sub>公使來<sub>テ</sub>電<sub>ノ</sub>末<sub>ニ</sub>文<sub>ニ</sub>  
 如<sub>ク</sub>至<sub>リ</sub>急<sub>ニ</sub>一<sub>ノ</sub>快<sub>ク</sub>走<sub>リ</sub>巡<sub>ル</sub>洋<sub>ノ</sub>船<sub>ノ</sub>位<sub>ニ</sub>  
 置<sub>ト</sub>謂<sub>ヒ</sub>禮<sub>儀</sub>ト<sub>モ</sub>謂<sub>ヒ</sub>望<sub>望</sub>置<sub>ト</sub>商<sub>ノ</sub>  
 備<sub>ナ</sub>シ<sub>テ</sub>カ<sub>ス</sub>島<sub>ニ</sub>派<sub>遣</sub>セ<sub>ル</sub>  
 多<sub>ク</sub>シ<sub>テ</sub>帝<sub>ノ</sub>國<sub>々</sub>ヲ<sub>モ</sub>護<sub>ル</sub>途<sub>ヲ</sub>悉<sub>ク</sub>  
 可<sub>ク</sub>然<sub>ル</sub>ト<sub>モ</sub>思<sub>フ</sub>考<sub>ス</sub>

毎

頁

續

電

第五十四號

小村外務大臣

在米 高平全權公使

電信譯文

華盛頓 庚申五月十九日  
東京着 二十日

貴電第三十四號、関シマーカズ島ノ件ハ國務省法律顧問  
 官ノ審議ニ附セラレタリ本官カ全官ヨリ探知シタル只  
 ニ依テ合衆國政府ハ該島ニ對シ米國船長ノ發見ノ權利  
 ラ主張スルヤモ測リ難シ該船長ハ千八百九十九年中右ニ関スル  
 屬書ヲ合衆國政府ニ差出シタル趣ナリ(本官電信第五十二  
 號ニ載キ千八百九十九年ハ誤ナリ)本官ハ千八百九十八年中該島  
 ラ東京府ノ管轄ニ歸スル旨公示セラレタル以前數年ノ久シキ  
 該島ハ已ニ日本人ノ台領ニ屬シ居リシ事實ニ對シ法律顧問  
 ノ注意ヲ喚起シ且ツ該島ヲ台領スルコトナク單ニ之ヲ發見シ  
 タルニ止ル事事實ハ領有ノ權ヲ組成スルニ足ルヤト尋ネタル

全官ハ未タ確乎タル意見ヲ吐露スルノ用意ナカリキ事情  
 右ノ如クナルヲ以テ若シ吾人ニシテ日本人ノ發見カ千八百八十九  
 年以前ナルコトヲ示スヲ得バ事態ヲ單簡ナラシムヘシ差向キ  
 日本移住者ト米國船長間ノ紛擾ヲ豫防スルノ處置ヲ施  
 スコト必要ナルヘシト思ハル蓋シ米國船長カ前田談島ニ至リ  
 シトキ日本移住者ハ銃器ヲ差向ケタル由ナレハナリ法律顧問  
 ハ若シ日本政府ニ於テ右ノ目的ノ為メ軍艦ヲ派スルニ決シタル  
 場合ニハ日本移住者ト衝突ヲ避クル様米國船長ニ命令  
 スヘキ旨在日本米公使ニ訓令スルコトヲ約諾セリ

1197

長  
好  
の  
出  
候



中ノ一ノカスニ  
 海ノ中ノ一ノカ  
 中ノ一ノカ  
 中ノ一ノカ  
 中ノ一ノカ  
 中ノ一ノカ  
 中ノ一ノカ

1199

喜多川

之

り


の

り

# 全急

1200

部長


副官 


参事官


後川所  
七世


三月五日 七月三十一日 起案

大臣


直務局長 

第一課長 

課員 

總務長官 

人事局長 

第一課長 

主任課員 



第二部長 

第三部長 

第四部長 

第五部長 

局長

本館... 派... 入集

△但之方為  
本日西御元  
帥葬儀に出  
張り貴船乗  
負り中運呼  
返せらるるハ  
ス

石炭ヲ備載シ至急

止り此迄海準海也

二十五日七月廿二日

長友

長友

長友

呈置ラ南多島一巡

二十五日七月廿二日

長友

長友

海難第...

電案

呈置於長、意後

長友

二十五日七月廿二日

長友

1202

格領長友

海

軍

(四二五)

至急

大臣 權

總務長官



事務局長



第一課長

課員



人事局



第一課長



主任課員

副官

參事官

三十九日七月廿二日此案

七月廿二日午前九時五分

部長



次長



第一局



副官



貴艦出航ノ日時豫定ハ速ニ報

海軍

歴史資料センター

局

源

副官

源

官

後

七廿廿二午前十五分

三二二案

第一課長

第一課長

課員

源

須

第一課長

源

主任課員

決定次速報

海軍

東京海上保安部

人事局

經理局

財政本部

濟

海軍

1204

告  
せ  
ら  
し  
た  
る

乙  
十  
五  
年  
七  
月  
三  
十  
日

置  
行  
長

廻  
路  
長  
友



軍令部



副官



參事官

發付日  
七月廿一日

二十五年七月廿一日起案

大臣 榎

總務長官



軍務局長



第一課長



職員



人事局長



理局長



艦政部長



第二部長



訓令

海軍機密第二四三號  
第一號  
海軍大臣 榎 訓令  
第一號  
海軍機密第二四三號

海軍機密第二四三號

海軍

鳥島台殿

（スニコト）  
詩可ヲルヨリ昔

漢自出先飛の津浦路に水有申事申す候  
在信の先飛の津浦路に水有申事申す候  
也館主及在信長傳其後、方填筆申す候  
三十五年七月廿二日  
大

三書

在信の先飛の津浦路に水有申事申す候  
也館主及在信長傳其後、方填筆申す候  
三十五年七月廿二日  
大

第三十三號

鳥島台殿  
三十五年七月廿二日  
大



忠平

今被中... 南... 島... 山... 寺... 大... 寺...  
身... 口... 了... 日... 國... 妙... 持... 師... 一... 名...  
修... 寺... 仁... 訓... 今... 大... 寺... 宗... 正... 寺... 大... 使...  
一... 姓... 名... 為... 自... 念... 法... 師... 正... 寺... 大... 使...  
一... 寺... 正... 寺... 大... 使... 正... 寺... 大... 使...

正寺大使

正寺大使

正寺大使



外務省  
文書  
第二  
号

至意

1211

軍令部部

長

次長

濟

第三局

細谷

副官

第一局

佐野

第二局

佐野

明辰

副官



參事官

年 月 日 起 案

發付日  
七月廿

大臣

總務長官



軍務局長



第一課長

課員



今般軍艦等之南鳥島派遣ノ事  
ニ取付ト司艦長ハ別紙之通、訓令及

二四三八四

系比及通牒乃也

七月廿二日

大臣

外務大臣

總理大臣

通牒ヲ報告スル

別紙ニ添付スル

至急

軍令部長



次長

濟

第一局

第三局



副官



副官



參事官

發付

年月日

年 月 日 起案

大臣濟

總務長官濟

軍務局長



第一課長

課長



今般其般ニ搭乗南鳥島ニ派遣スル并ニ  
外務省書記官ハ別紙字之通リ訓令ニ及ビ  
海軍省第二四三號ニ



前軍

越外務大臣より通牒あり此上有心得ハシ

三十五年七月廿三日

大臣

笠原 兼光



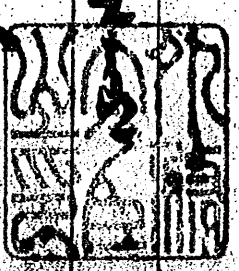
権

機密送第六七號

今般南島(マーカーカス島)一軍艦  
派遣ニ就キ外務書記官石井菊次郎  
別紙之島ノ通リ訓令相授テ該艦ヲ  
乘口地出港シ命シテ右風合ノ上  
北緯四十度南緯七十度ニ

外務大臣署名

海軍大臣署名





于以... 三十四年七月二十四日、告示...  
 車乘存所屬トシテ、以テ厚島ノ船ヲ控  
 内ニ編入セラルル事、成移後、由ノ行テ益シ  
 其伊等ヲ控保シテ、今日迄、之ヲモテ人ニ  
 白キ事、官ニ未ダ國高船長ニ對シ、此事ト交  
 ラ没明スルコト

二、是レ米正高船長ノ行テ右ノ逆州ニ乘船  
 せん中、官ニ對シ、本年案ノ決定ハ、日  
 本兩政府間ニ於テセラルルキモノナラシメ、  
 口ノラシテ何等占領ノ處置ヲ執ラトシ、而  
 雖ヤシクシ

三、是レ官ニ米正高船ト成移後、自ト官ニ何等  
 葛藤ノ生ズル標高船方ニ等飛渡方ニ

意より申る渡船長より承るべし

四君し申ふ船長より於て候に權ヲ寄るんカ

如キ所方ニ出ルニ於テハ申す旨ハ送置船長

ノ協儀ノ上便宜適者ノ措置ヲ採ルべし

右乃内州也

明治二十五年七月廿日

大分県立歴史資料センター

軍令部

1219

軍務局



自衛隊

権

初等科 七校

五五

大志志七 経 準 約 ヲ 為 シ ツ、ア、ラ、石

尖 七 百 五 十 出 務 込 ヲ 以 ツ、

お 中 三、二、一、に、た、決、し、出、務

先、又、十、キ、の、し、に、但、し、来、か、七、割、に

計、七、也、也、人

別紙 七校



1221

# 電報送達紙

局着		局		發		所名人信受	
取受	信受	付受	第	局	報	定指	番若 號信 第
扱者	信	午	月				
	午	時	日				
	時	分	號				
<p>カニサエ ツカエナカ コエタダ ホエダ ツカエ</p>				局		所名人信發事記	
				號			
				注			
				<p>他人宛タル電報ノ配達ヲ 受ケタルモノハ此由ニ符號 シ直ニ此レヲ配達シタル 電信局所ニ返戻スヘシ決シ テ其受取本人ニ直送シタ 手渡シスヘカサズ</p>			
				印 附 日			



1222

電報送達紙

局着 受取者 信 局 時分 字 分	局 時分 字 分	第 七 日 號	發 局 報 指 番 號 第 一 號	受 信 人 名 所
電報送達紙 送達時間 七時五分 送達日 七月五日 送達場所 東京 送達人 佐藤 送達内容 東京 送達手数料 〇円			注意 他人宛タル電報ノ到達ヲ 受ケタルモノハ此由テ符號 ヲ進チ此レヲ配達シタル 電信局所ニ返戻スヘシ決シ テ其取戻人ニ直接ニ及ビ 手渡シムヘカラズ	受 信 人 名 所 東京 送達時間 七時五分 送達日 七月五日 送達場所 東京 送達人 佐藤 送達内容 東京 送達手数料 〇円

了る

第一編

不并外務を記復へ 中東を記復へ 貴州

貴州

核記復へ向ヶ

何時ニナリマスカ



以答

中東を記復へ 不并

明治二十年以前に於て、本公使館へ打左、都  
合多、同、六年、後、何時、二十年、分、カ、時、年、分、者、列  
車、一、年、り、終、り

海軍